

# HPV（ヒトパピローマウイルス）と子宮頸がんの関係

## HPV（ヒトパピローマウイルス）とは？

ヒトにのみ感染することができるウイルスで、200種類以上のタイプが見つっています。そのうち、子宮頸がんをはじめとする“HPVに起因するがん”から検出されたタイプのもを『ハイリスク HPV』と呼んでいます。

HPV16型、18型は特に前がん病変や子宮頸がんへ進行する頻度が高く、スピードも速いと言われています。

（当院での HPV 検査はこの型の検査を行います。）

## すべての子宮頸がんの原因は HPV 感染？

子宮頸がんの95%以上は HPV が原因であることがわかっています。

HPV 感染と関係がなく子宮頸がんになるものもありますが、非常に稀（数%程度）と言われています。

## HPV が感染すると、どうなる？

HPV に感染しても無症状です。そのため、**HPV に感染したことに気づくことはありません**。性的接触などの刺激により、知らない間に感染が起きているのです。

生涯のうちに HPV に感染したことがある女性は、全女性の 50～80%と推定されています。つまり、性交経験のある女性は、ほぼすべて感染したことがあるとも言えます。

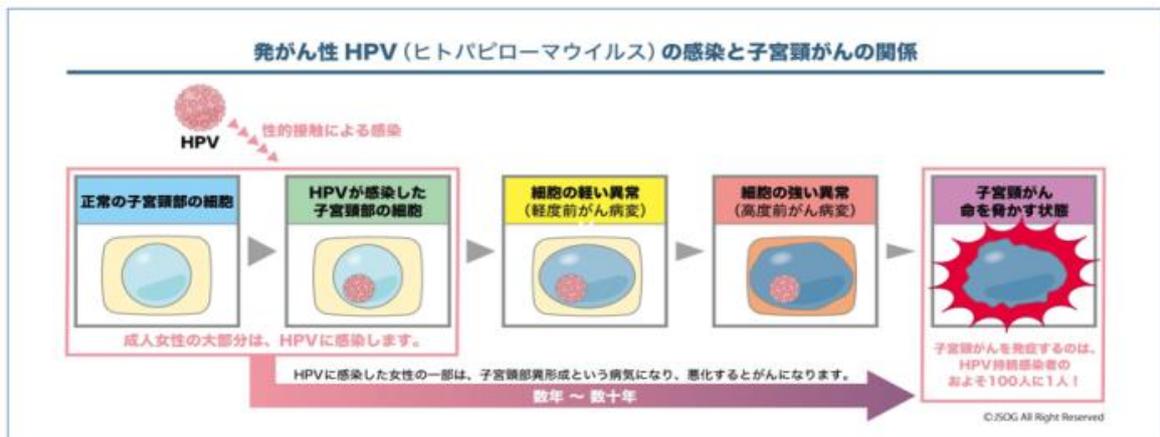
しかし、子宮頸がんになるのはごく一部の HPV 感染者だけであり、また、子宮頸がんを発症するまでには数年から数十年かかると言われています。

## HPV 感染から子宮頸がんの発生までの過程は？

ハイリスク HPV が持続的に（少なくとも6か月以上）感染し検査陽性になる状態が続くと、子宮頸がんの前がん病変（異形成）につながっていきます。

前がん病変は、「子宮頸がん検診」で見つけられますので、**かならず子宮がん検診を受けましょう**。

がん検診を受診しないと、気づかれないまま、子宮頸がん（浸潤がん）に進行することがあります。



一方、HPV が検査上陰性である女性は、病気を発症するリスクが低くなります。したがって、**HPV 検査は「がん発症リスクを評価するうえで役立つ検査」**といえます。

## HPV 受診の対象年齢と受診間隔の目安は？

検査対象は 30 歳～60 歳、検診間隔は 5 年を目安としています。

【参考文献】 国立研究開発法人国立がん研究センター「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」（2020.7）  
公益社団法人 日本産婦人科学会「子宮頸がん と HPV ワクチンに関する正しい理解のために」（2021.1）

文責：栄エンゼルクリニック 婦人科 山内